1 次の（1）～（2）の文章は、因果関係が適切ではありません。それぞれの〈修正方法〉に従って、文章全体を書き直しなさい。

（1）赤い光は心を興奮させる効果があるが、青い光は心を落ち着かせる効果がある。だから、赤い光の多い場所にいるよりも青い光の多い場所にいるほうが、心が落ち着くはずだ。

〈修正方法〉 2文めの――部を、1文めの――部と異なる内容にする。

（2）緑や赤のチョークで黒板に文字を書いても、あまり目立たない。一方、白や黄のチョークで黒板に文字を書くと、目立つ。だから、黒板には、緑や赤ではなく白や黄のチョークで文字を書くほうが、よく目立つと言える。

〈修正方法〉 3文めの――部を（※）、2文めの――部と異なる内容にする。

※3文め全体を変えてもよい。

1(1) 月 日 評価 A B C 解説は143ページ
1(2) 月 日 評価 A B C 解説は144ページ

●ポイント●

●（1）（2）どちらも、もとの文章のおかしさに気づくためにできることは、いくつかあります。
まずは、「だから」の前後の文を、続けて音読してみましょう。
何度も繰り返しながら、1回めより2回め、2回めより3回めの音読スピードを上げていきます。そうすると、たしかにおかしなことを言っている、と思えるようになるでしょう。

●ポイント●

●もとの文章のおかしさに気づくために有効な方法があります。
それは、**「だから」の前後の文の述語**（述部）のパーツに線を引き、そこだけを「だから」でつないで、読んでみることです。
（1）「心を落ち着かせる（効果がある）→だから→心が落ち着く」。
（2）「目立つ→だから→目立つ（と言える）」。
前後でほとんど同じことを書いているということに気づきますね。
「だから」をわざわざ使うからには、前後で違った内容になっていなければなりません。
こういったミスを防ぐために、自分自身でチェックする方法を身につけておくようにしましょう。